

学生の確保の見通し等を記載した書類

- (1) 新設組織の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2
 - ①新設組織の概要
 - ②新設組織の特色

- (2) 人材需要の社会的な動向等・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2
 - ①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析
 - ②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析
 - ③新設組織の主な学生募集地域
 - ④既設組織の定員充足の状況

- (3) 学生確保の見通し・・・・・・・・・・・・・・・・ P 5
 - ①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果
 - ア 既設組織における取組とその目標
 - イ 新設組織における取組とその目標
 - ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく新設組織での入学者の見込み数
 - ②競合校の状況分析
 - ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性
 - イ 競合校の入学志願動向等
 - ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等
 - エ 学生納付金等の金額設定の理由
 - ③先行事例分析
 - ④学生確保に関するアンケート調査
 - ⑤人材需要に関するアンケート調査等

- (4) 新設組織の定員設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・ P 10

(1) 新設組織の概要

①新設組織の概要（名称、入学定員（編入学定員）、収容定員、所在地）

令和9年度に新たに名古屋看護学部を設置する。

新設組織	入学定員	編入学定員	収容定員	所在地 (教育研究を行うキャンパス)
岐阜保健大学 名古屋看護学部 看護学科	80	0	320	愛知県名古屋市港区千鳥 1-13-22

②新設組織の特色

令和9年度に、岐阜キャンパスに加えて、旧名古屋市医師会看護専門学校の校舎等の教育資源を継承し、名古屋市港区千鳥1-13-22を本学の名古屋キャンパスとし、名古屋看護学部を開設する計画である。名古屋看護学部の設置と同時に、従来の「岐阜保健大学」から「日本保健大学」への改称も行う。名古屋看護学部は、看護の基礎的知識と基本的な技術、態度を備え、生命の尊厳を基盤とした倫理観、心豊かな人間性をもった看護実践能力のある看護職を養成する。

(2) 人材需要の社会的な動向等

①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

本学部では、地域の保険医療に貢献する看護師及び保健師を養成する計画である。看護師及び保健師の社会的動向について以下にて述べる。

日本看護協会の「2040年を見据えた看護提供体制のあり方について」（2025年9月）【資料1】では、長期的な看護職員の人材確保と育成について、以下のように述べられている（一部抜粋）。

『看護職員就業者数は年々増加し、2023年には174.6万人となり、訪問看護事業所（8.7万人）や介護保険施設等（16.8万人）で増加傾向となっている。就業者の中で増加しているのは50歳以上で、特に60歳以上の構成割合が増加しており、2022年には12.8%を占めている。2040年に向けた看護職員の需給推計については今後、国で検討される方向であるが、2018年当時の需要推計方法では210.1万人と推計されている。生産年齢人口が減少する社会において、2023年の174.6万人との差は大きく、さらに直近3年間では看護職員就業者数の伸びが鈍化している状況にあるため、人材確保は相当厳しくなると考えられる。看護職の確保に向けては、養成数の視点と、定着・離職の視点で考える必要がある。先に述べた通り、看護職員就業者数は年々増加しているが、年齢構成を鑑みると、就業年数の延長による増加と解釈される。少子化の中、現在の看護職養成数を維持するならば、2040年には18歳人口の12人に1人が看護職を選択する必要があるが、それを前提とすることは難しい。すでに看護師養成課程の定員充足率が100%を切っている。労働人口の急減を迎えても、複雑な背景をもつ多くの患者、療養者のニーズに対応するためには、看護職一人ひとりの能力を大幅に高めることが必須である。

2040年に向けて、限られた人数で質の高い看護提供体制を確保するためには、多職種との協働を進めながら、看護職一人ひとりが人間の生命と尊厳及び権利を尊重する高い倫理観を持ち、看護実践能力を向上させ、自律した看護を展開することが欠かせない。その実現のためには、基礎教育、新人教育、生

涯学習の各段階を通じて、シームレスに看護師を育成する体制の整備が求められる。その際、施設単位での看護職員の育成・確保という考え方から脱却し、地域単位で看護職を育成し、人材を共有する考え方への転換が極めて重要になる。地域包括ケアシステムを実効性高く展開していくためには、病床や医療機関機能の明確化・連携と、それに伴う看護機能の強化、看護の質向上に向けた取り組みが必要であり、人材育成はその要になる。』

また厚生労働省の「看護師等の確保を促進するための措置に関する基本的な指針」（2023年10月改訂）【資料2】によれば、以下のような指針が示されている。

『「2040年を見据えた社会保障の将来見通し（議論の素材）」に基づくマンパワーのシミュレーション」（2018年5月21日厚生労働省）の「現状投影ベース」等に基づく看護師等の需要推計を行うと、看護師等の需要数は、2025年度から2040年度に向けて増加していくものと推計される。（略）一方、総務省統計局「国勢調査」（令和2年）及び国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和5年推計）出生中位（死亡中位）推計」によれば、生産年齢人口は、2020年の7,509万人から2040年の6,213万人へと急激に減少するものと推計されている。このように、少子高齢化の進行によって、令和22年（2040年）に向けて、生産年齢人口が急減していく中で、看護師等の確保を推進していくことが必要となっている。』

②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

本学部が主な学生募集地域とする愛知県の18歳人口について、本学部開設から10年間（2027年度～2036年度）の推計を、学校基本調査の各学年在籍数から推測した表は以下の通りである。全国では▲142,650人（2027年度比86.9%）、愛知県では▲7,965人（同比88.6%）の減少が予測されている。10年間で約12%の18歳人口減は確実であり、ほとんどの大学への志願者、入学者は大きく減少することが予測される。本学部では、人口減少局面においても地域社会から求められる看護人材を養成するとともに、高校生から選ばれる学部となるべく不断の努力を継続し、適切かつ効果的な学生募集活動を展開することで、定員を充足できると考えている。

全国及び愛知県の10年間の18歳人口推計

	2027年度（開設時） 18歳人口	2036年度（10年次） 18歳人口	減少幅	2027年を100% とした割合
全国	1,085,148人	942,498人	▲142,650人	86.9%
愛知県	69,797人	61,832人	▲7,965人	88.6%

（出典）学校基本調査

※2027年の18歳人口は、令和5年度（2023年度）の中学3年生、中等教育学校3年生、義務教育学校9年生の合計。

※2036年の18歳人口は、令和6年度（2024年度）の小学1年生及び義務教育学校第1学年生徒数の合計。

③新設組織の主な学生募集地域

これまでの本学（岐阜キャンパス）は、岐阜県を中心的な学生募集地域としてきた。令和9年度に愛知県名古屋港区に開設する名古屋看護学部においては、愛知県を中核とした中部地区を主な学生募集地

域と設定する。学生募集地域としては、中部地区3県を中心とするが、令和9年度から日本保健大学への名称変更も行うことから、中部地区の隣接県や日本全国からの学生募集も想定する。学校基本調査（2025年度）によれば、愛知県全体の大学入学者44,100人に対し、愛知県の高校出身者は28,555人で64.8%、岐阜県出身が10.3%、三重県出身が6.6%と、中部地区3県の合計で81.7%と80%以上を占めている【別紙1】。このデータからも、愛知県出身者が志願者、入学者の半数以上となることは動かないと考えている。

④既設組織の定員充足の状況

本学は前身の短期大学、専門学校時代を含め岐阜県において医療専門職養成の長い実績があることから、令和1年度の大学開学当初は堅調な志願状況となっていたが、18歳人口の減少により、直近の令和7年度は全ての学科において未充足となっている。既設学部学科の志願者、合格者等の志願状況の詳細は【別紙2】に記載した。令和7年度（令和7年5月時点）の収容定員充足率は、看護学部看護学科（入学定員80人、収容定員320人）は0.70、リハビリテーション学部理学療法学科（入学定員60人、収容定員240人）は0.96、作業療法学科（入学定員30人、収容定員120人）は0.40、リハビリテーション学部全体では0.77の収容定員充足率となっている。定員未充足の状況に鑑み、名古屋看護学部を開設する令和9年度に、看護学部看護学科の入学定員を▲20人（80人→60人）、リハビリテーション学部作業療法学科の入学定員を▲15人（30人→15人）減員する予定である。

（収容定員充足率が0.7倍未満の学科等の定員未充足の原因分析）

収容定員充足率が0.7未満であるリハビリテーション学部作業療法学科の学生募集不調の原因は、作業療法学、作業療法士という学問分野、職種自体が高校生に認知されておらず、学問分野や職務の内容が理解されていないことにより、本学のみでなく作業療法学全体における志願ニーズの低調であると分析している。本学では、作業療法士の職務内容の説明などを周知させる活動を続けてきているが、現在の定員の充足は難しいという結論に至ったことから、上記の通り、令和9年度より入学定員を▲15人（30人→15人）減員する。

(3) 学生確保の見通し

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

本学は既設学部として看護学部看護学科（令和1年度開設）、リハビリテーション学部理学療法学科、作業療法学科（令和3年度開設）の2学部を擁している。既設学部の学生募集活動の状況は以下及び【別紙3】に示す通りである。

オープンキャンパスの来場者実績（全学）

	R6 年度入試	R7 年度入試
参加者等総数(a)	387 人	405 人
うち受験対象者数(b)	270 人	278 人
うち受験者数(c)	108 人	116 人
うち入学者数(d)	75 人	108 人
(受験率 c/b)	40.0%	41.7%
(入学率 d/b)	27.8%	38.8%

受験対象者向けにキャンパスを開放し、大学の特色や入試情報の提供をはじめ、施設見学、施設を利用した体験授業、模擬講義、入試相談、在学生との懇談を実施している。毎年約8回実施しており、令和7年度入試対象（令和6年度実施）では、(3/23、5/12、6/9、7/15、8/3、8/24、9/29、11/4) に実施した。

令和7年度の参加者数は、405人（前年比18人増）、受験者は116人（前年比8人増）、入学者（前年比33人増）であり、すべての数字が伸びている。特に入学率が大きく伸びており、質の高いオープンキャンパスの実施に起因するものと考えている。受験者が教員及び在学生と交流しやすいように、スタッフの人数を増やし対応している。入学者総数のうち、このオープンキャンパスを利用している受験生は、令和6年度入試では75%、令和7年度入試では82%と高い数値であることから、今後もオープンキャンパスが学生募集における重要起点であると分析している。なお、令和8年度入試向けには、放課後オープンキャンパスも実施し始めており、主に受験学年の生徒を中心とした来学があることから、さらなる受験者及び入学者の増加を見込んでいる。

大学案内の送付実績（全学）

	R6 年度入試	R7 年度入試
送付総数(a)	3,554 人	3,616 人
うち受験対象者数(b)	977 人	791 人
うち受験者数(c)	71 人	56 人
うち入学者数(d)	44 人	39 人
(受験率 c/b)	7.3%	7.1%
(入学率 d/b)	4.5%	4.9%

本学に興味を持って資料請求してきた高校1年生から高校3年生の名簿を作成しており、5月に大学案内

内及び入試ガイドの一斉発送を実施している。また、前年度の3月、該当年度の4月及び6月に、オープンキャンパスに関するリーフレットも発送している。さらに、看護・医療系の職業に興味を持ってもらえるよう、キャリアデザイン講座を開設し、本リーフレットも発送している。受験誌・受験業者ネット媒体に資料送付するとともに、そこから本学への興味を促すよう、大学案内、入試ガイド及びリーフレット送付を行っている。過去2年において、送付総数は微増、受験対象者と受験者数は減少、入学者数、受験率は微減、入学率は微増している。受験対象者数が減少していることから、受験業者のネット媒体や紙媒体の再検討が必要であるが、オープンキャンパス参加者が増加していることを踏まえると、大学案内、入試ガイド及びリーフレット送付による一定の効果があると分析している。

イ 新設組織における取組とその目標

新たに設置する名古屋看護学部においては、本部のある岐阜県から愛知県名古屋市にキャンパスが変わることから、学生募集の取り組みは継続するものの、募集地域とアプローチする高校を全面的に見直した上で、学生募集活動を実施する。また本学部においては、連携する名古屋市医師会の協力のもと、充実した教員、実習病院、就職が可能になることから、その点も学生募集において大きなポジティブ要因と考えている。具体的な学生募集活動では、高大接続改革の趣旨に沿い、本学部の教育内容と卒業後のキャリアの展望を高校生に丁寧に説明した上で、アドミッション・ポリシーを満たした学生を志願者、入学者として受け入れる。本学部においても、直接的な接触が可能となるオープンキャンパスを学生募集活動の中心と考え、オープンキャンパスへの来場のための高校訪問、医療系大学説明会への参加、各種媒体への出稿、資料請求者への大学案内やDMの発送、大学HPやSNSの充実を図る。様々な募集施策を総合的、一元的に実施し、その定量的な管理と達成に努めることで、本学部の入学者の確保を達成する。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

新設する名古屋看護学部の学生募集における具体的な数値目標の設定は以下の通りである。

名古屋看護学部の志願者等の目標設定

	R9 年度入試（名古屋看護学部）	
オープンキャンパス参加者①	600 人	
うち受験対象者②	400 人	
受験者③	200 人	受験率（③／②） 50%
合格者④	160 人	合格倍率（④／③） 80%
入学者⑤	80 人	入学率（⑤／②） 20%
		入学者歩留まり（⑤／④） 50%

②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

本学部では、学校種、定員規模、学問分野、所在地、学力層の類似性から、以下の3校を競合校と選定し、競合校と本学部（名古屋看護学部）との比較分析を行った。

競合校と本学部との比較分析

	競合校	立地	競合校の人材養成目的等の教育内容	本学部との比較・本学部の優位性
1	名古屋学芸大学 看護学部 看護学科	名古屋市 中区	医療現場に隣接した環境で基礎から専門までの看護知識と技術を身につけ、臨床現場での実践力・研究心の育成、地域包括ケアや国際的な視野の涵養を柱とした教育内容となっており、幅広い年齢層の患者や疾病に対応できる看護師を養成。	競合校（2018年設置）は名古屋市の都心部に位置し、国立病院機構名古屋医療センターに隣接し、同病院を実習施設とするなど、優位点が多く、入学難易度や志願者数でもかなり高い水準となっている。本学部は、名古屋市医師会との連携、医療系の総合大学である点、看護師等の医療人材の養成において長い伝統と実績を持つ点において、競合校に対する優位性を見出したい。
2	椋山女学園大学 看護学部 看護学科	名古屋市 千種区	医学・看護学の基礎知識と幅広い教養を身に付けるカリキュラムと個別指導により、専門スキルだけでなく、人間としても魅力的な看護師、養護教諭を養成する。また、名古屋市内の基幹病院を中心に数多くの実習先を用意し、多様で豊富な臨床経験を通してあらゆる医療・看護現場に対応できる実践力を身に付けることができる。	競合校は伝統のある女子大学であり、看護学部の設置も先行（2010年設置）し、看護師養成の実績を蓄積している。本学部は共学であることから、競合校とは志願者層において一定の棲み分けが発生すると考えている。競合校は女子大学であることが強みであり弱みでもあるので、本学部は共学校としての強みの中に優位性を見出したい。
3	名古屋葵大学 健康科学部 看護学科	名古屋市 瑞穂区	座学や演習だけでなく、成人、小児、母性、老年、精神、在宅看護など多様な臨地実習を早期からおこない、他学科との連携教育を通して、看護師として必要な知識・技術・人間性を総合的に学ぶ。また、口の機能と健康との関わりを学ぶ「口腔健康管理学」の科目を設け、「食と健康」を結びつけて考えられる視点を養うことができる。	競合校は看護学部としては後発（2019年）であるが、2025年度に女子大学から共学化し同時に名称変更を行っている。本学部では、名古屋市医師会との連携など、看護師養成の教育環境の質を向上させることで、競合校に対する優位性を見出したい。

イ 競合校の入学志願動向等

競合校の入学定員、収容定員と充足状況は以下の表に示した。3校は定員規模や学生数においてかなり類似しているが、3校とも問題なく定員を充足している。競合校の充足状況からは、本学部は定員を充足する蓋然性が高いことが示されている。また競合校の入学志願状況（一般選抜）は【資料3】に示したが、3校とも2025年度入試においては合格倍率は3.0倍以上であり、十分な志願者、受験者を集めていることが示されている。

競合校の充足率（令和7年／2025年度）

	競合校	入学定員	入学者数	入学定員充足率	収容定員	学生数	収容定員充足率
1	名古屋学芸大学 看護学部 看護学科	100	105	1.05	400	429	1.07
2	椋山女学園大学 看護学部 看護学科	110	141	1.28	420	495	1.17
3	名古屋葵大学 健康科学部 看護学科	120	152	1.27	440	492	1.12

(愛知県の看護系大学の状況)

上記の競合校も含めた、愛知県の看護系大学の志願状況について以下の表にて示す。令和6年度における愛知県の看護系大学16校において、入学定員は1,640人、志願者数は10,294人、合格者は4,807人で合格倍率は2.0倍、入学者数は1,745人で入学定員充足率は106.4となっている。愛知県における志願状況、入学定員充足率からは、名古屋看護学部の学生確保の見込みが示されている。

看護系大学の志願状況(令和6年度/2024年度)

	学校数	入学定員	応募者数 (志願者数)	受験者数 ①	合格者数 ②	入学者数	合格倍率 (①÷②)	入学定員 充足率
愛知県	16	1,640	10,294	9,629	4,807	1,745	2.0	106.4
全国	310	106,740	117,305	106,341	50,533	26,044	2.1	97.6

出典：「看護関係統計資料集 令和6年」(日本看護協会)

ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等(競合校定員未充足の場合のみ)

競合校は全て入学定員、収容定員ともに充足しており該当なし。

エ 学生納付金等の金額設定の理由

本学部及び競合校に設定した3校の学納金は以下の通りである。本学部の学納金設定は、競合校3校の中で最も低い水準であり、学生の経済負担を考慮した競争力のある設定となっている。以上により、本学部の学納金設定は、学生募集と教育研究の維持継続の両方を満たす適切な学納金設定となっている。

本学部及び競合校の学納金

	大学学部学科名	入学金	授業料等	初年度納付金
本学部	岐阜保健大学 名古屋看護学部 看護学科	200,000	1,500,000	1,700,000
競合校	名古屋学芸大学 看護学部 看護学科	200,000	1,600,000	1,800,000
	椋山女学園大学 看護学部 看護学科	200,000	1,700,000	1,900,000
	名古屋葵大学 健康科学部 看護学科	150,000	1,550,000	1,700,000

(単位：円) ※2025年度学納金。出典：各大学HP

③ 先行事例分析

純粋な学部新設のため該当なし。

④学生確保に関するアンケート調査

本学部の学生確保の見通しを測定するために、入学意向アンケート調査【資料4】を実施した。調査と結果の概要は以下の通りである。

入学意向アンケート調査【資料4】の概要

調査時期	令和7年8月～12月
調査対象	中部地区3県及び隣接県の高校2年生（令和7年度）
回答件数	5,146人（40校及びオープンキャンパスでの実施）
調査結果の概要	（受験・入学意志） ・受験意志（第一志望）：223人（4.3%） ・受験意志（第一志望～第三志望以降）：420人（8.2%） ・受験意志かつ入学意志を示した者：226人（4.4%） （クロス集計） ・「大学進学希望」かつ「私立大学を志望」かつ「看護学分野を志望」かつ「受験意志（第一志望）」かつ「入学意志」を示した者：188人（3.7%）

以上に示した調査結果の通り、回収のあった5,146人（40校）のうち、223人（4.3%）が受験意志（第一志望）を、226人（4.4%）が受験意志（第一志望～第三志望以降）かつ入学意志を示した。5重クロス集計では、「大学進学希望」かつ「私立大学を希望」かつ「看護学分野を志望」かつ「受験意志（第一志望）」かつ「入学意志」を示した回答者は188人（3.7%）（入学定員80人の2.35倍）となった。

以上の調査結果により、名古屋看護学部について、十分な入学意向が示された。なお、本調査は高等学校（40校、4,928人）とオープンキャンパス（8月3日、8月24日、9月28日、10月18日）参加者（218人）にて実施しているが、重複回答は確認し禁止しているため、回答の重複はない。

⑤人材需要に関するアンケート調査等

⑤-1 人材需要アンケート調査

本学部の人材需要の見通しを測定するため、病院等の事業所向けに「採用意向アンケート調査」【資料5】を実施した。調査と結果の概要は以下の通りである。

採用意向アンケート調査【資料5】の概要

調査実施時期	令和7年9月～11月
調査対象 （送付・依頼先）	名古屋看護学部看護学科の卒業生の採用が見込まれる以下の事業所 （業種）病院、保健所 （地域）中部地区3県（愛知県、岐阜県、三重県） （依頼件数）541事業所
回収件数	86件（回収率15.9%）
調査結果	（看護師） 採用意向：57事業所（66.3%） 採用の場合の採用可能人数：181人 （保健師） 採用意向：8事業所（9.3%） 採用の場合の採用可能人数：11人

以上及び添付資料に示した調査結果の通り、「本学部で養成する人材の地域的、社会的ニーズ」について72事業所（83.7%）から「人材ニーズは高い」の回答を得た。「卒業生の採用意向」では、看護師としての採用では、57事業所（66.3%）から「採用したい」の回答を得た上で、181人の採用可能人数が示された（入学定員80人の2.26倍）。保健師としての採用では、8事業所（9.3%）から「採用したい」の回答を得た上で、11人の採用可能人数が示された（保健師定員12人の0.92倍）。

以上の調査結果により、名古屋看護学部の卒業後の人材需要について、病院等から十分な採用意向が示された。

⑤-2 看護師の人材需要についての証左

愛知県における看護師・保健師等の求人倍率は、2.53（2024年6月、愛知労働局）【資料6】と全職業の平均0.87に対して高い倍率となっている。有効求人数も2,673件（全求人数39,477件の6.8%）と最大規模の集団となっており、看護師の人材需要が強いことが示されている。

日本看護協会の発表（2025年11月）【資料7】によれば、都道府県ナースセンター（全国89箇所）の求人状況を集計したところ、2024年度の求職者数は68,724人、求人数は172,522人、求人倍率2.51倍で10年ぶりの高水準になったことが示されている。求人倍率は2023年度の2.22倍から0.29ポイント増加した。2009年度以降、求職者数は6～7万人台で推移し、2021年度に13万人を超えたが、2024年度は6万人台まで減少しており、求人数は2021年度以降に17万人台で推移している。

以上に述べた看護師の人材需要の証左から、愛知県、全国ともに、看護師の人材需要は2024年現在においても強いことが示されている。今後、少子化により全産業、特にエッセンシャルワーカーにおいて採用需要が強くなることを考慮すると、今後も看護師の人材需要は堅調に推移すると推測される。

（4）新設組織の定員設定の理由

名古屋看護学部を開設する令和9年度に、本学看護学部看護学科の入学定員を▲20人（80人→60人）、リハビリテーション学部作業療法学科の入学定員を▲15人（30人→15人）減員する予定である。上記の（1）～（3）で述べた定員充足の根拠に加え、合計▲35人の入学定員を既存学部において削減も行うことから、新たに設置する名古屋看護学部看護学科（入学定員80人）の定員設定は、合理的かつ適切な設定と考えている。